

平成28年度 N I E 教育実践報告

始良市立蒲生中学校

1 はじめに

本校は、学校教育目標「生きる力を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成」を掲げ、その具現化を図るとともに、生徒の基礎的・基本的な学力の向上に重点を置きつつ、さらに思考力・判断力を育成するために、「学力向上のための授業づくり～思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを通して～」を研究テーマとして、学校全体で研修を推進している。

併せて、今年度初めてN I E教育実践指定を受けたことを生かし、思考力・判断力・表現力を高めるための積極的な新聞活用について模索しながら、様々な活動に取り組んだ。

2 実践内容

(1) 各教科における授業での新聞活用

各教科における新聞記事を教材とした授業実践及び新聞記事を活用した生徒自ら考え活動する時間や内容の工夫。

<国語科>

3年生が単元「古典に学ぶ」の中で、作者松尾芭蕉の心情をより深く理解するために「芭蕉新聞」作成に取り組んだ。

また、全学年、読解力をつけさせるために、コラムを読んで考える週末課題に取り組むとともに、1, 2年生は、南風録にタイトルをつける課題にも取り組んだ。



「週末課題」



「南風録タイトル」



「芭蕉新聞」

<大楠学級(特別支援学級)>

特別支援学級生が、古新聞を活用して小箱や袋等の作成を行い、日常生活での有効利用につなげる取組を行った。



「小物作り」

(2) 新聞コーナーの設置

生徒玄関に新聞コーナーを新設し、各新聞社の1面記事を見比べることができるような配置を行った。また、生徒の原稿が掲載された「若い目」の掲示やN I Eに関する新聞記事等も掲示し、生徒の新聞への興味、関心を高める設営に努めた。

また、来客が頻繁に訪れる正面玄関には、学校だよりや本校に関連する新聞記事等の掲示を行い、本校の教育及びN I Eの実践の紹介に努めた。



生徒玄関「N I E コーナー」



「正面玄関」

(3) 朝、帰りの学活等での新聞記事発表

各学級、朝、帰りの学活等で、新聞記事を活用して、1分間スピーチ、発表等を行った。特に3年生の学級においては、多くの人の前で、自分の言葉で話をさせるために、「新聞の1面記事」「若い目」等からと指定をして、意見や感想を述べる活動に取り組んだ。生徒の感想からも、記事を活用することによる話しやすさと発表になれていく成長を感じている様子がうかがえた。



「1分間スピーチ」

(4) 掲示板の充実

各教科、各学年の掲示板等に新聞記事を積極的な掲示に努めた。その中で社会科は時事問題を中心に設営をするとともに、簡易な問題用紙も作成し、随時活用できるような配置にした。また、英語科では、英字新聞の構成を参考にした紹介文の作成に取り組んだ。



「社会科掲示板」



「英語科掲示板」

(5) 学校行事，総合的な学習の時間等における新聞づくり

学習のまとめを行う際に，新聞形式を取り入れ，発表や文化祭等の掲示で活用した。また，生徒会新聞作成においては，これまでのレイアウトを改善し，興味をひく構成になるよう工夫をしている。



「新聞作成グループワーク」



「修学旅行新聞」



「生徒会新聞作成」



(6) 新聞社への投稿

南日本新聞（「若い目」）等への積極的な投稿を国語科，担任，教頭等が行い，6人の掲載と10月に若い目賞を受賞した。



南日本新聞「若い目」掲載

活文化を大切に
 蒲生3年 若松 雄雄
 「新聞は大人が読むもので，子どもは新聞紙を遊び道具として使っておけばいい。恥ずかしながら小学生のころの私は，こんなことを思っていました。新聞に縁がありません。なかに機会訪れたのは，夏休み明けの昨年9月。蒲生中がNHK美術館指定校に選ばれ，新聞が配布され始めた時でした。生徒会の係として，毎朝6時の新聞を掲げて取り，私たちがただ興味や

とを思っていました。新聞に縁がありません。なかに機会訪れたのは，夏休み明けの昨年9月。蒲生中がNHK美術館指定校に選ばれ，新聞が配布され始めた時でした。生徒会の係として，毎朝6時の新聞を掲げて取り，私たちがただ興味や

換える仕事を担当しました。各新聞のトップ記事を読んで，同じニュースでも，各社の扱いや表現が全く違ふので面白く思いました。朝見たテレビのニュースと同じ内容も，新聞の方が頭の中に入り込むような気がしました。インターネットが普及している時代を生きている私たちは，活文化を大切に，情報化社会を築いていくことが大切です。将来の私へ，「新聞をしっかりと読んで，日本の活文化を大切に，情報化社会を築いていくことを祈ります。」（給良市）

平成29年1月8日 南日本新聞「若い目」掲載



「若い目賞」受賞式

(7) 全校朝会、学年朝会等における講話での新聞記事活用

全校朝会、学年朝会の際に、時期や学校行事に合わせた新聞記事を積極的に活用した講話をその都度行った。



「校長講話」



「学年朝会」

(8) 学校だより、学級通信等におけるN I E教育実践の紹介

学校だよりや学級通信等を通して、随時N I E教育実践取組を紹介し、保護者、地域の方々への啓発を図った。



「南日本新聞 掲載記事一覧」



「学校だより」

N I E 推進校(4年間)

平成28年度から31年度までN I E教育(Newspaper in education)の実践指定を受けました。新聞を学校の教育活動に積極的に活用していきますので、ご家庭でも一緒に新聞を読んだり、新聞記事を話題にした話にも取り組んでください。



3 成果と課題

今年度、N I E教育実践校として指定を受け、1年目の取組を終えようとしている。これまでの新聞活用に加え、各教科、各職員そして生徒が教育活動の様々な場面において新聞活用を意識した取組が進んでいる。その成果として、毎学期末の生徒アンケート結果から新聞をほぼ毎日読んでいる生徒数が増加するとともに、物事を多角的に見たり、幅広い視点から自分の考えを整理して人の前で簡潔に話したりするという思考力・判断力・表現力の向上もみられている。

また、教師の教科指導や学級経営においても、新聞の特性を生かした教材作成や新聞づくりによる主体的、対話的学びの取組も積極的に図られるようになってきている。今後は、この1年間の取組をさらに発展させ、新聞活用の充実を図るために、各新聞社の協力や外部講師等の活用を推進して行く必要があると考える。

まだ1年の取組ではあるが、新聞活用が教育効果を高めるとともに、本校教育の情報発信にもつながり、感謝にたえない取組になっている。引き続きN I E教育の実践の深化を図っていきたい。